

民国共用のストックヤード設置による民有林整備の推進支援について

石狩森林管理署 村瀬寿安、菅原宏幸

赤井川村役場 須藤雅俊

研究の背景・目的

石狩森林管理署においては、これまで、積丹町及び石狩市と、それぞれ森林整備推進協定を締結し、双方とも民国で共用するストックヤードを設置して民有林材と国有林材の協調出荷を行ってきました。

ストックヤードの設置に当たっては、木材需要者のニーズを踏まえ、大手木材需要者が木材輸送に一般的に用いる運材用トレーラーが乗り入れることのできる仕様にしたところ、両市町のストックヤードとも、新たに道東の製材事業者が素材公売の入札に参加するなど、入札参加者が増加しました。

当初は公有林等の民有林材単独では出材ロットが小さいため買い手がつきにくいという懸念があったものの、出材ロットが大きい国有林材と同時期に公売を実施したことにより無事完売しました。その結果、木材販売代金を民有林整備の費用等に充てることが可能となり、今後の民有林整備推進に弾みがついたと考えられます。

他方、近隣の市町村では、木材需要地から遠く、搬出間伐を行っても小規模であり、さらに木材輸送トレーラーが乗り入れ可能な土場もない地域が多く、民有林における搬出間伐が進みにくい状況が見られることから、上記協定の取組に倣い、赤井川村においても木材の協調出荷に取り組むこととしたものです。



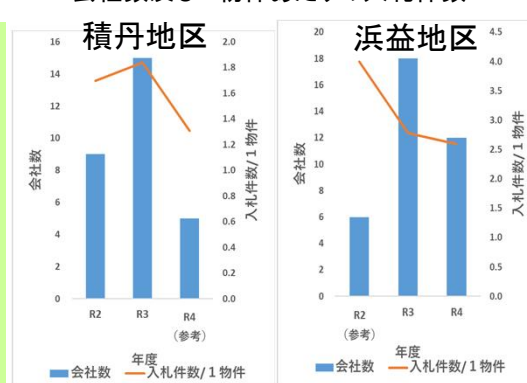
研究の内容・成果

1 スtockヤードにおける国有林材の入札結果

ウッドショックによる需要増を勘案したとしても、以下の状況から、ストックヤードの整備効果はあったと考えています。

- ・ 積丹町のストックヤードでは、整備前と比較すると、素材公売への参加者が9社から15社に増加するとともに、1物件あたりの入札件数が1.7件から1.8件に増加。
- ・ 石狩市のストックヤードでは、翌年度に実施した通常土場と比較すると、1物件あたりの入札件数には大きな変化はないものの、通常土場では遠方の事業者による入札が減少。

会社数及び1物件あたりの入札件数



2 赤井川村への横展開

赤井川村は昨年度が市町村森林整備計画の策定年度であり、当署においては、これまで村有林の蓄積や間伐収穫木の材積等の把握を行うための調査として、標準地調査やドローンによる上空からの林況把握調査に協力してきました。

今後、同計画に基づき村有林において搬出間伐等を行うこととなりますが、村有林には木材を集積する用地がないことから、隣接する国有林に運材用トレーラーが乗り入れ可能なストックヤードを整備し民・国で木材を協調出荷することを含めた、森林整備推進協定を提案しました。

また、毎年度の施業計画、ストックヤードの整備内容等も含め協議を行った結果、赤井川村と合意に至り、本年1月19日に赤井川地域「森林整備推進協定締結」を締結することができました。

今後の展開

民・国での木材の協調出荷により民有林における木材販売収入が定着すれば、小規模な一般民有林における間伐推進の呼び水になり得るとも考えられることから、今後とも赤井川村と連携し、民有林の整備の一助となるよう継続して取り組んでいく考えです。